

「二度上峠のカモシカ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

積雪期は動物の行動を推理しやすい。雪面にあし跡が残るからである。



例えば、この大きなあし跡の主は「カモシカ」である。カモシカは「シカ」の和名を持つが、シカの仲間ではない。シカ(ニホンジカ)は鯨偶蹄目・シカ科だが、カモシカ(ニホンカモシカ)は、ウシ目・ウシ科で、共通する分類単位は「哺乳綱」までさかのぼる必要がある。つまりシカとはほぼ無縁の動物だ。雪上に残されたカモシカのあし跡は、写真のように非常に特徴的なので、まず見間違えることはない。2つに分かれた枝先がやや開いた「V字型」になったものが、点々と続いている。カモシカは前肢と後肢の間隔も大きいので、あし跡の間隔も広い。



カモシカは、人里から亜高山帯まで、本州ではごく普通に見られる大型哺乳類である。写真は、本白根山(もとしらねさん)の登山道の近くに現れたカモシカである。あまりヒトを恐れない性格なのも特徴だ。



カモシカは、ヒトに出会うと、一箇所にじっと立ちつくす性質がある。俗に「アオの寒立ち」と呼ばれる行動である。本白根山で出遭ったカモシカも、微動だにせず、登山者の一群が通り過ぎるのを、実に10分以上も待っていた。顔はハンサムではない。



写真は、高崎市倉渕(元倉渕村)から、北軽井沢で直接抜けられる「群馬県道54号線」である。二度上峠(にどあげとうげ)を越えた直後、浅間山と浅間高原が、突然眼にとびこんでくる。



渋滞のない近道なのだが、カーブが70カ所もある、山道だ。この道では野生動物に「出会わないことのない」この日も、一頭のカモシカと遭遇した。